

受験番号

--

2025 年度

東京藝術大学大学院映像研究科 メディア映像専攻 修士課程入学試験

第 2 次試験

筆記試験

この表紙含めて 3 枚

(解答用紙は 2 枚)

- 試験時間は 60 分 (13:00～14:00) です。
- 解答は日本語に限ります。
- 辞書等の持込は認められません。
- 配布物は全て回収しますので、持ち帰らないでください。

【問 1】

以下は英語版ウィキペディアに掲載されている語とその解説の一部抜粋です。5つの中から1つを選び、冒頭の語も含め一般的に用いられている日本語に訳して下さい。

(1) Appropriation (art)

The use of appropriation has played a significant role in the history of the arts (literary, visual, musical and performing arts). In the visual arts, "to appropriate" means to properly adopt, borrow, recycle or sample aspects (or the entire form) of human-made visual culture. Notable in this respect are the readymades of Marcel Duchamp. Inherent in the understanding of appropriation is the concept that the new work recontextualizes whatever it borrows to create the new work.

(2) Gutai Art Association

The group, today one of the most internationally-recognized instances of 20th century Japanese art, is best known for the broad range of experimental art forms combining painting with performance, conceptual, interactive, site-specific, theatrical and installation artworks, which its members explored in unconventional venues such as public parks and on stage.

(3) Archive

Professional archivists and historians generally understand archives to be records that have been naturally and necessarily generated as a product of regular legal, commercial, administrative, or social activities. They have been metaphorically defined as "the secretions of an organism", and are distinguished from documents that have been consciously written or created to communicate a particular message to posterity.

(4) Xenophobia

It is an expression that is based on the perception that a conflict exists between an in-group and an out-group and it may manifest itself in suspicion of one group's activities by members of the other group, a desire to eliminate the presence of the group that is the target of suspicion, and fear of losing a national, ethnic, or racial identity.

(5) Intersectionality

Intersectionality is a sociological analytical framework for understanding how groups' and individuals' social and political identities result in unique combinations of discrimination and privilege. Examples of these factors include gender, caste, sex, race, ethnicity, class, sexuality, religion, disability, height, physical appearance, age, and weight. These intersecting and overlapping social identities may be both empowering and oppressing.

【問2】

以下は「フルクサス」についての説明です。

①から⑩の空欄に入る適切な人名や用語を解答用紙の欄に記入してください。

フルクサスは 1960 年代に誕生した国際的かつ領域を越境して活動した芸術運動あるいは芸術家のネットワークである。その成立にあたっては、デザイナーで建築家の [①] による呼びかけをきっかけとして、10 か国以上から約 70 名のアーティスト、作曲家、デザイナー、建築家、詩人、パフォーマーなどが参加した。フルクサスには未来派やシュルレアリスムのように確固たるマニフェストは存在しないが、とりわけ [②] からの影響が顕著で、反芸術という立場を特徴としていた。

フルクサスの活動は多岐にわたり、演奏、パフォーマンス、展示、印刷物やオブジェの制作など、ジャンルやメディアの枠組みを超えた形式を含んでいた。その中で、創始者のひとりである [③] が提唱した「インターメディア」という理念は、フルクサスの本質を端的に表している。インターメディアは、従来の表現メディアやジャンルの「間」に着目し、異なる領域を横断する試みが新たな創造性を生むという視点を提供する。この概念は、フルクサスの活動を単なる交流や社交ではなく、相互作用によって新しい価値を生み出す実践として理解できるもので、その後の現代アートにも大きな影響を与えた。

フルクサスには、ナムジュン・パイク、ヨーゼフ・ボイス、オノ・ヨーコ、久保田成子といった国際的に著名なアーティストが参加し、それぞれが専門分野にとらわれない自由な表現を追求した。中でも [④] はビデオアートの先駆者として、[⑤] は社会彫刻の概念を通じて、フルクサスの理念を具体化した。

また、日本からは、偶然性や図形楽譜による音楽活動を展開していた [⑥]、同時期に小杉武久や塩見允枝子らと即興音楽集団「グループ音楽」を結成した [⑦] などが参加し、地域や文化を越えた対話を可能にした。[⑧] [⑨] [⑩] からなるハイレッド・センターの《首都圏清掃整理促進運動》が、1966 年の **Fluxfest** で再演され、日本の前衛芸術が国際的文脈で再評価されるようになった。

フルクサスは、その柔軟性と領域を越境する姿勢を通じて、既存の枠組みを解体し、新しい表現の可能性を模索するプラットフォームとなった。そこで実践された「インターメディア」という理念は、パフォーマンスアートやビデオアート、インスタレーションアートといった現代アートの発展において重要な基盤を提供し、今日の芸術表現における自由な横断性の象徴とも言える運動体あるいはネットワークとして、美術史にその名を残している。

以上